

公定歩合引下げに関する政策委員会議長談

(昭和61年4月19日)

去る3月の公定歩合引下げ以降、物価はこれまでの円高や原油価格の低下もあって一段と鎮静してきている一方、国内景気は、鉱工業生産が減少気味となるなど、拡大テンポの鈍化が続いている。

この間、為替市場においては、円相場はなお必ずしも安定してきたとは言い難く、ここ数日来は再びかなり円高・ドル安の展開となっている。

こうした中で、このたび、米国が公定歩合の引下げを決定し、海外金利の低下傾向は今後も持続するとみられる。

以上のような諸情勢に鑑み、日本銀行は、この際、公定歩合をさらに0.5%引下げることが適当と判断し、21日から実施することとした。同時に、預貯金等の金利の最高限度変更につき大蔵大臣の発議を受け、金利調整審議会に諮問した。

日本銀行としては、今回の措置が円相場のより安定した動きに寄与するとともに、先般の総合経済対策の諸施策と併せ、内需の拡大とそれを通ずる対外不均衡の是正に一段と資することを期待している。

以上

日本銀行基準割引歩合および基準貸付利子歩合の変更

(昭和61年4月21日実施)

- | | | |
|---|--------|-----------|
| 1. 商業手形割引歩合ならびに国債、
特に指定する債券または商業手形
に準ずる手形を担保とする貸付利
子歩合 | 年3.5% | (0.5%引下げ) |
| 2. その他のものを担保とする貸付利
子歩合 | 年3.75% | (0.5%引下げ) |